

東京天台

平成二十五年
秋彼岸号

発行所
天台宗東京教区

杜多徳雄

〒107-0062 東京都港区南青山1-3-22
TEL.03-5785-3481

<http://www.tendaitokyo.jp/>

身近なほとけさま

阿弥陀さまについて

毎年、春分の日と秋分の日を皆さんが一週間は彼岸ですが、この期間に家族みんなでお墓参りをして、ご先祖様をご供養する方も多いのではないのでしょうか。

この時期は昼と夜の長さが同じとなり、太陽は真東から昇つて、真西に沈んで行きます。大阪の四天王寺の真西には、海に向かって大きな鳥居が立っていますが、鳥居の真ん中に沈んでいく太陽

陽を拝むために、お彼岸には多くの参拝客が訪れています。

では、なぜ西という方が大切なのかといえは、それは西には阿弥陀さまがいらっしゃる極楽浄土があるからなのです。人は亡くなると、阿弥陀さまのお導きによって、この極楽浄土へと生まれ変わるといわれています。そのため、ご先祖さまを思う私たちは、極楽の世界へと想いを馳せ、ご先祖さまを守つて下さる阿弥陀さまに感謝をするために、お彼岸にお参りをするのです。

極楽の世界

『阿弥陀経』には、極楽はたいへん美しく、苦しみは一切存在せず、幸せが満ちあふれているとあります。そこは、先に往生

された人々とも親しく語り合うことができ、心安らかに阿弥陀さまの説法を聞き、自然とさとりを開くことができる場所なのです。

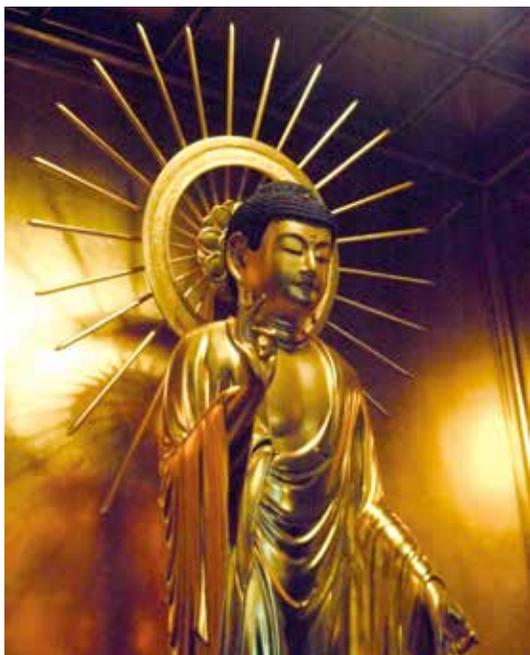
また阿弥陀というお名前は、インドの言葉をもそのまま音写したもので、無量光、無量寿と翻訳されます。限らない光、限らない寿命という意味になります。

ところで、阿弥陀さまはじめから仏さまであつたわけではありません。阿弥陀さまは仏さまになる前に、ある国の王様をしていました。しかし、王様の地位を捨て、出家して法蔵菩薩と名乗り、長い時間をかけて多くの仏さまの世界を見てまわつたのです。そして、どの仏さまの世界よりも優れた、あらゆる人々を救うことができる国を作りあげようと決意されました。

阿弥陀さまのお誓い

そこで法蔵菩薩は、四十八の誓願を立て、それを成し遂げることができないうちは仏(阿弥陀如来)とならないという決意をされました。長い修行の末、ついに成仏して阿弥陀如来となり、西方に極楽浄土を建立することができたのです。

この四十八の誓願の中でも特に重要



阿弥陀如来像 金嶺寺蔵



とされる願いが第十八番目の願です。阿弥陀さまは、「私が仏となったら、あらゆる世界の衆生が、心から極楽浄土に往生したいと望んで念仏を唱えれば、必ずそれを叶えよう。もしそれが叶わないならば、私は仏にはなるまい」と誓われています。

そのため天台宗では「南無阿弥陀仏」というお念仏を唱えます。「南無」とは、心からあなたを尊敬しますという意味です。念仏によつて、阿弥陀さまの本願に導かれ極楽へと往生することをめざすのです。

阿弥陀さまに由来する言葉は、現在でも多く使われています。例えば「あみだくじ」「帽子をあみだにかぶる」などがあります。昔の「あみだくじ」は中央から放射状に線をのばしていたそうで、阿弥陀さまの光背に形が似ていることから、そのように名づけられたそうです。「あみだにかぶる」も光背に由来します。また、「歌舞伎の十八番」といわれる「十八番」という言葉も、阿弥陀さまの第十八番目の願から生まれた言葉です。

「現代社会と仏教」

「慈」と「悲」 相手を思う心

皆さんは「現代学生百人一首」というものをご存知でしょうか？百人一首といっても学生のカルタ大会ではなく、東洋大学が創立百周年を迎えた際、「百」にちなんだ記念行事のひとつとして始めた短歌のコンクールで、感性豊かな若者からは、毎年、学生のものの方や生活感覚を詠みこんだ、いわば「現代」を反映した多くの作品が集まります。

その「現代学生百人一首」の、今年の入選作品の中に、

初めての ホームステイで知ったのは

国境のない 優しさでした

(東京都 高一)

という、人と人の繋がりが、温かさを詠んだ歌がありました。また、

パンダにも 解決できぬことがある

溝を埋めるは 互いの誠意

(北海道 高一)

と、先の歌とは逆に、国と国の隔たりを感じさせる歌もありました。

仏教の重要な用語の一つに「慈悲」があります。「慈」は、友情を意味し、あらゆる人々に平等に友情をもつことで、相手の幸福を望む心情を表します。「悲」は、同情を意味し、相手を自分と等しいと思う心で、苦しみを除いてあげたいと思う心情を表します。

相手を自分と等しいと思い、接するところに「互いの誠意」が生まれ、それがあらゆる人々に広がれば、まさに「国境のない優しさ」に満ちた場所（仏の浄土）が、私達のこの世界に建設されることでしょう。私達それぞれが、自分の心に「慈」と「悲」を意識しながら日々の生活を送りたいものです。

ところで、「現代学生百人一首」と同じように、毎年全国から募集されているものに「サラリーマン川柳」があります。ちなみに今年の第一位に選ばれたのは、

いい夫婦

今じゃどこでも いい夫婦

という句だそうです。やはり慈悲の実践は難しいものですね……。

仏教豆知識 ⑤ 『お塔婆について』

お塔婆という言葉はインドの「ストウーパ」という言葉の音訳で、「卒塔婆」とも表記します。「ストウーパ」とは、「お釈迦さまの舍利(ご遺骨)を納めた塔」という意味で、当初は土饅頭型であったものが次第に五輪塔の形になり、それが簡略化されて現在の板塔婆になりました。

五輪とは、古代インドで考えられていた万物を構成する五つの要素(空輪、風輪、火輪、水輪、地輪)のことで、宝珠型、半月型、三角形、円形、四角形の五つの形で表されます。五輪塔とはその五つの形を積み上げた塔をいい、板塔婆上部の切れ込みは五輪塔の形を表すように刻まれています。



お塔婆の書き方は宗派によって違いますが、天台宗ではここに五輪を表す五つの梵字(古代インドの文字)を書き入れることで、狭義には仏さまのお姿、広義にはこの世界の全ての存在を表し、ひいては仏さまの教え(真理)がこの世界の隅々にいきとどいている様子を象徴しているともいわれます。

五つの梵字の裏側には「大日如来」という真理を象徴する仏さまを表す梵字を書き入れられます。これらからお塔婆を

建立することは、仏さまの教え(真理)を讃えるとともに大日如来の像を造立するという功德を積むことといえるのではないのでしょうか。

この他、お塔婆には故人のお戒名やご自身のお名前を書き入れます。これらには、お塔婆建立の功德を故人に回し向けることによって、その方が仏さまのお導きで安らかな世界へ到達できるように、という故人への思いやりと、ご自身が今あることに對する故人や仏さまへの感謝を表す意味があります。

このようにお塔婆には様々な功德や意味がありますので、ご法事の際に限らず、故人とご自身の安寧を願って折に触れて建立したいものです。

一隅大会報告

六月十四日、浅草公会堂において「第四十三回一隅を照らす運動東京大会」が開催された。

ご参加の皆様との厳粛な法要の後、聖路加国際病院小児総合医療センター長、細谷亮太氏に「今、伝えたい『いのちの言葉』」と題した講演を頂いた。

細谷先生は長年難病に苦しむ子供たちの治療にあたり、時に病のために亡くなってしまった子供たちを見送ってこられた。小児ガンを扱う現場で、病と闘う子供達と真摯に向き合ってきた先生の実験から貴重なお話を伺う事が出来た。



細谷亮太氏

先生は、「生きとし生けるもの(動物や山川草木)すべては我々と同じように一緒に生きている。生かされていくことの尊さを感じて頂きたい」と丁寧な説かれた。一人一人が生きる意味を知り、命を輝かせて毎日を生きて行く為のヒントを頂いた講演であった。

一隅運動表彰者 十四名

- 小沼三郎様 森尾幸子様
- 鈴木ナヲ様 新村重晴様
- 小堀米子様 石井親雄様
- 酒井香月様 結城清志様
- 高橋静江様 佐藤雅俊様
- 永井恒子様 高岸 一様
- 小山孝作様 諸岡且悦様

募金御礼

皆様からの善意の募金は、総額七万五千三百六十二円になり、全額を天台宗地球救済事務局へ寄託致しました。



昌翁寺 本堂

昌翁寺 本堂
嘉祥二(849)年、慈覚大師の創建。その後、廃寺同様となるも、寛永十四(1637)年、戦国大名藤堂高虎公の助言により再興され、以後、藤堂

昌翁寺 本堂
昌翁永久居士から、大慈山永久院昌翁寺と称している。記録に「境内七段、本堂七間半に六間、観音堂二間四方、表

昌翁寺 本堂
昌翁永久居士から、大慈山永久院昌翁寺と称している。記録に「境内七段、本堂七間半に六間、観音堂二間四方、表

昌翁寺

昌翁寺 本堂
昌翁永久居士から、大慈山永久院昌翁寺と称している。記録に「境内七段、本堂七間半に六間、観音堂二間四方、表

天台の寺めぐり

36

仙川駅周辺

昌翁寺 本堂
昌翁永久居士から、大慈山永久院昌翁寺と称している。記録に「境内七段、本堂七間半に六間、観音堂二間四方、表



本尊 阿弥陀如来

昌翁寺 本堂
昌翁永久居士から、大慈山永久院昌翁寺と称している。記録に「境内七段、本堂七間半に六間、観音堂二間四方、表

真光寺

真光寺
嘉祥二(849)年、慈覚大師の創建。その後、廃寺同様となるも、寛永十四(1637)年、戦国大名藤堂高虎公の助言により再興され、以後、藤堂

真光寺
嘉祥二(849)年、慈覚大師の創建。その後、廃寺同様となるも、寛永十四(1637)年、戦国大名藤堂高虎公の助言により再興され、以後、藤堂

真光寺
嘉祥二(849)年、慈覚大師の創建。その後、廃寺同様となるも、寛永十四(1637)年、戦国大名藤堂高虎公の助言により再興され、以後、藤堂

真光寺
嘉祥二(849)年、慈覚大師の創建。その後、廃寺同様となるも、寛永十四(1637)年、戦国大名藤堂高虎公の助言により再興され、以後、藤堂



阿弥陀如来 仏頭

真光寺
嘉祥二(849)年、慈覚大師の創建。その後、廃寺同様となるも、寛永十四(1637)年、戦国大名藤堂高虎公の助言により再興され、以後、藤堂

「東京教区公式サイト」リニューアル

このたび天台宗東京教区の公式サイトがリニューアルされました。

- 教区紹介
- お知らせ・行事報告
- 教区内寺院紹介
- 刊行物バックナンバー 等

随時更新中

<http://www.tendaitokyo.jp/>
(旧サイトと同一です)



返還された半鐘

